

城東

| |
|-------------|
| ● 城東地区 ● |
| 1915 世帯 |
| 男 1818 人 |
| 女 1949 人 |
| 合計 3767 人 |
| H 27.9.1 現在 |

わが町自慢

元町南町会運営の 赤ちようちん

若い世代への町会引継ぎを如何にするかが、どこの町会でも共通の悩みではないでしょうか。

昨年11月町会三役会に次のような「赤ちようちん企画書」が提出された。そこには「町会に埋もれている若い力を掘り起こし、老若男女のコミュニケーションを活性化し相互の親睦と理解を深め、延いては災害時の隣人を蓄える事を目的とする」とあった。

多くの賛同を得、早速店名を「酒房みなみ」とし、「飲み物と、肴は自分で持ち込む」ことを原則とした。従って来店者全員がマスターであり、また全員がお客様。12月21日、いよいよ新規開店。

当日は、昼間しめ縄作りと蕎麦打ち試食会があり、残ったとうじ蕎麦もつまみにして、ビールを飲む人、清酒をちびりちびりやる人、ウイス



(生ビールで乾杯)

キーをロックでやる人、勿論全く飲めない人もウーロン茶や甘酒で気分はすっかり酔っ払い。十人十色のつまみがテーブルに並びこれも話題のひとつに。

3月には思いもかけなかった突然の買い物難民地域化。城東地区地域づくりセンターのご協力もあり、「酒房みなみ」での話題が移動販売車の週一の常設につながりました。5月には公民館の玄関先で焼肉バーベキュー、7月には生ビール飲み放題などの特別イベントで盛り上がり、8月末には第8回の「酒房みなみ」を迎えました。

「継続は力なり」を信じて。

女鳥羽町会

あすなる会

少子化が進み、我が町会にも高齢化の波が押し寄せ、隣近所の繋がりをより一層深くコミュニケーションを図るのから、女鳥羽町文化サークルの一環として「あすなる会」演歌カラオケ教室が誕生したのが三年前になります。

戦後七十年の節目と言われる昨今、当時生まれた方々が中心に会員只今十三名です。

歌を媒介してストレスの解消、記憶力向上や脳の活性化、健康促進、心の癒し等、医学的にも実証されています。一曲、一曲、自分の歌に出来た時の達成感、また次への挑戦する勇氣になります。

練習後には「お茶会」が開かれ、とりわけ健康管理や料理等、日常生活情報支援の割合が多く、より一層人間関係が深ま

ります。

「翠檜の木」の様にも明日の高揚を願う活動中です。



(あすなる会)

大安楽寺

歳の瀬には紅白歌合戦の結果を見た後、いそいそと防寒具を身にまとい、除夜の鐘を聞きながら岡宮神社へ二年参りをしてお神酒を頂き、その流れで大安楽寺に参る、このパターンが城東地区の住民の大半の方がしている風景ではないでしょうか。現在は一月の第二日・月曜日の厄除け縁日に仁王門に敷かれる大わらじが有名で、女鳥羽町内外から大勢の人々がそのご利益にあずかる為にわらじを踏んでお参りしています。

城東地区で馴染みの有る女鳥羽町の文化財と言えば大安楽寺ですが、この町自体、明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成され、女鳥羽町もそのひとつです。大正十二年に道路が開かれ、その頃から女鳥羽町と呼ばれましたが、東側に女鳥羽川が流れているため命名されました。

江戸時代に下級武士の住宅のあった徒士町から観音小路を抜けて松本城の鬼門の方角、(北東)にあったため、鬼門除けの鎮護の寺でした。基本的に松本市内の寺院は女鳥羽川沿いに配置され、有事

の際の武者溜まりとしての機能がありましたが、大安楽寺(江戸時代には安楽寺と呼称した)にもそのような一面もあったと思われま

す。明治初年、廃仏毀釈を強制されて廃寺となりましたが、後年復興されて、更に平成二十年新築された本堂は女鳥羽町内の様々な角度から見ることが出来て、その威光を放っています。平安時代から一六一七年に移って以来、松本城主代々の守り寺として、祈願所として、更には仏法の学問所の役割もあつたそうです。

江戸時代までさかのぼってしまふと、女鳥羽町は田畑のみの場所でした。そこに住みついた私たち住民も、知らぬ間に昔からの文化に触れながら生きていた事を実感します。



(大安楽寺)

北上横田町の 今を考える

北上横田町は、城東2丁目
の一部、女鳥羽2丁目的一部
旭1丁目の一部から成る町会
加入戸数63戸の小さい町会で
す。町の道路の殆んどが一方
通行で、必要でない車輛は通
行しない為、極めて静かな町
です。

我が町も、松本市のドーナ
ツ化現象の典型的な町であ
り、様々な問題が町会を襲っ
ています。

①町会加入戸数の減少

50年前は、町会加入戸数が
100戸以上有り、道には元
気な子供達が走り廻っていま
した。しかし、子供が成人し、
郊外に家を建てたり、都会に
転出されたりして住む人の居
なくなつた家は、駐車場に変
わりました。町会員の減少は
町会を運営する役員の成り手
が減る事となり、役員を決め
ることが大変難しくなりました。

②町会員の高齢化

70歳以上の夫婦だけの世帯
及び70歳以上の一人住まいの
町会員が増えています。地震
等の災害が起きた時どの様に
安全を確保するか町会の大き
な課題となっています。また
身近な問題として冬場、道路

の除雪が負担になる家が年々
増加しています。

は、町会員の連帯を深めるの
に大いに役立つと思っている
ます。

③子供が大変少ないこと

現在、当町会には、小学生
7名、中学生3名しか居りま
せん。町会PTAでは、伝統
行事である青山様、三九郎
を子供に体験してもらおうと
頑張っています。しかし青山
様の神輿の担ぎ手が男子だけ
では足りず、女子の協力のも
とに行うのが現状です。また
三九郎は大人が作らなければ
成り立ちません。

前記の様に、当町会はかつ
てない難しい問題に直面して
います。

この様な町会ですが、自慢
できることもあります。当町
会には、公民館の横に福徳稲
荷社があります。この稲荷社
は、嘉永6年に京都伏見稲荷
大社よりご神体をお迎えした
大変、歴史のある稲荷社で、
160有余年厚くお守りして
来たことです。

そして今でも毎年8月の
第一日曜日にはお位日とし
て、岡宮神社の宮司を御呼び
びして、年番を中心に親睦会の
協力のもと、祭りを執り行っ
ています。また同様に1月に
は道祖神祭、2月には初午祭
を毎年行っています。この稲
荷社が我が町会に在り、町会
員全員で各行事を執り行う事



(稲荷社祭典)

女鳥羽町会女剣士

教士七段
猿田若枝さん



「合」「剣の作法」「体さばき」
を総合的に判断して一本を決
め、礼節を尊ぶ奥深さがみら
れる。

現在女性世界最高位剣道七
段保有者は二六〇人で県下で
は二人しかおらず、其の一人
が二〇〇七年に県内初の合
格者となった町内の猿田若枝
さんです。六段から七段への
昇段審査受験資格は六年間の
修行を得て初めて与えられま
す。

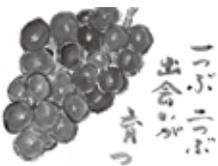
猿田さんは、宅老所での介
護職につきながら、心身共に
毎日の鍛錬が不可欠のなか、
女性受験者六二名中、見事一
人だけ厳しい条件を突破し快
挙を成し遂げました。

「七段保有者として一つ一
つの動作や生き方が問われ
自分自身を戒めると共に剣道
に携わる人達を引っ張るのが
自分の使命」と言い切り、剣
道を通じて自分が与えられた
物を子供達に返したい、そん
な周囲への感謝の思いを日々
修行の厳しさを心に秘めて道
かう人達に優しい笑顔で元氣
を与えてくれます。八段への
昇段受験資格は七段から更に
一〇年間の修行が求められ
夫婦揃っての八段を目指して
います。

あとかぎ

人は氣温が高くなると汗を
かくことで体温調整をしてい
ますが、体温が40℃を越え続
けると、熱中症になりやす
くなります。

また体温の調節機能が衰え
やすい高齢者の方も熱中症に
なるリスクが高いことが知ら
れています。めまいや、体の
ほてりを感じ頭痛や腹痛など
の症状があったら熱中症のサ
インです。体がだるくなつた
り、ぐったりと力が入らない、
また手足の筋肉が痙攣し、つ
たりする症状になっていきま
す。これらの症状には、汗の
かきかたが異常な場合が多い
など、ほかの人から見ても熱
中症だとわかるような症状が
特徴です。熱中症が重度にな
ると、自分で水分の補給がで
きない状態になり呼びかけに
対して返答できないなど、深
刻な状態となつていきます。
これから、過ごし易い季節
にはなりますが、今年とは異常
気象により、まだまだ注意が
必要のようです。(矢島)



女鳥羽町会
作 さん
栄子 さん
原 さん
杉 さん